

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-50	高等学校	家庭	ファッション造形基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	家庭 705	ファッション造形基礎		

1. 編修の基本方針

教育基本法第二条の各号の目標を達成するため、それぞれ以下の点を基本方針とし本書を編修した。

教育基本法第二条	方針
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領にそって、高校生が学ぶべき基礎・基本の内容を本文で扱い、さらに補足的な内容や解説などを側注やかこみで扱うなど、幅広い内容を取り上げた。 ・健やかな身体の維持に必要な、からだに合った衣服について理解するために体型・動作と衣服の関係について写真や図を用いて具体的に解説をした。
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションに関連するさまざまな職業を取り上げ、勤労について考えさせられるようにした。 ・洋服及び和服の着装について学ぶ際には、コーディネートについても考える項を設け、個人の価値観と創造性を活かすことを考えさせるようにした。
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・洋服及び和服の製作・着装では、男女両方の題材・内容をあえるいは男女共通の題材・内容を取り上げ、衣服の製作とその着装について学ぶことを通じて、男女平等や自他の敬愛・協力を理解できるようにした。
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服素材において、環境への負荷が少ない新しい素材の開発が進められていること、リサイクルが求められていることを紹介した。

	・残り布を使った題材を設け、アップサイクルについても考えられるようにした。
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	・4章「和服の製作」においては、和服を製作し、さらに着用方法を学び、日常の中で実際に着用することを通じて、衣生活における日本の伝統・文化を理解し、尊重することの意義を強調した。

2. 対照表

●全体的な特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭・巻末	<p>【巻頭】写真を中心としたビジュアルな紙面を意識し、衣服への興味・関心を喚起するとともに、勤労を重んじる態度、社会への参画や発展に寄与する態度、日本の伝統・文化への理解を養えるように工夫した（第2号・第3号・第5号）。</p> <p>【巻末】写真を中心としたビジュアルな紙面を意識し、幅広い知識と日本の伝統・文化への理解を養えるように工夫した（第1号・第5号）。</p>	巻頭・巻末①～⑩
Column	衣生活に関する話題を取り上げ、衣服に対する幅広い知識や環境保全に寄与する態度を養えるように工夫した（第1号・第4号）。	p.9,37,205など
TRY	本文で扱う学習内容を基により発展的・主体的に学べるように工夫した（第1号・第2号）。	p.46,94,204など
+1	本文で扱う学習内容を基に製作例のアレンジ例などを主体的に学べるよう工夫した（第1号・第2号）。	p.91,105,183など

●章ごとの特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1章 衣服の構成	・人体の構造や寸法・体型・動作と衣服の関係について、イラストや写真を使い、視覚的にも理解できるようにした（第1号）。	・ p.6～22

<p>2章 衣服の素材</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服素材の種類については繊維・糸・布の順に構成し、段階的に理解できるようにした（第1号）。 ・持続可能な社会に向け、衣服素材のリサイクルや古布の利用について最新の事例も含めて扱った（第4号）。 ・製作したい衣服のイメージに合わせて素材を選択できるように、特集ページを設け、より実践的に学習できるようにした（第1号）。 	<p>・ p.24～46</p>
<p>3章 洋服の製作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・製作例に入る前にパターンを使用しない簡易的な製作例を示すことで、衣服の製作に親しみを持ってもらえるよう工夫した（第1号）。 ・さまざまなアレンジやデザインに触れられるように構成し、製作への理解が進むように工夫した。また図を多く掲載し、理解しやすいよう工夫した（第2号・第3号）。 	<p>・ p.48～154</p>
<p>4章 和服の製作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな製作の工程があることを考慮し、一部の工程について別の工程例も示した（第1号・第5号）。 ・残り布の活用について紹介するとともに、他にどのような活用方法があるかといった問いかけを設け、持続可能性について考えさせられるよう工夫した（第4号・第5号）。 	<p>・ p.156～205</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため、以下の点に留意し、本書を編修した。

学校教育法第五十一条	
一 義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。	中学校における学習内容を踏まえ、丁寧な記述、平易な文章表現、豊富なイラスト・写真などを盛り込んで、内容的な理解が深まるよう配慮をした。また製作例を扱うだけでなく、衣服を通じて持続可能な社会の実現についても考えさせられるよう配慮した。
二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。	専門科目として被服製作における知識を網羅し、関連する技術的な内容を習得できるよう構成した。また、衣服に関わる仕事について紹介し、さまざまな形で衣服と関わる人の姿を示すことで将来の進路についてイメージできるよう配慮した。
三 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。	衣服にかかわる社会的な課題を取り上げ、今後社会の構成員としてどのような課題解決の方向があるのか、考えられるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-50	高等学校	家庭	ファッション造形基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	家庭 705	ファッション造形基礎		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

衣服に関する基礎的な知識や洋服・和服の製作についての実践的内容が身につくよう以下の点に配慮した。

- ・ 写真やイラストを多く掲載し、視覚的にも学習内容が理解しやすいようにした。
- ・ 「Column」では、衣生活に関する話題を取り上げ、衣服に対する幅広い知識や実験、製作のポイントを通して、より製作に役立つようにした。
- ・ 各所に学習内容と関連した製作例などを紹介する「TRY」を置き、主体的により深い学習ができるように工夫した。

1章 衣服の構成

- (1) 人体の構造や寸法・体型・動作との関係については図や写真を利用して視覚的に理解できるようにした。
- (2) 立体構成と平面構成については、3・4章で洋服・和服に関して具体的かつ詳細に取り上げるので本章では特徴の説明のみに留めた。

2章 衣服の素材

- (1) 衣服の素材については、繊維→糸→布と段階的に説明をし、相互の関連が理解しやすいようにした。また、新しい素材や加工、古布を使った実習についても触れた。
- (2) 衣服材料の選択については、製作実習との関連づけを重視し、そのための特別なページ(p. 46)を設けて扱った。

3章 洋服の製作

- (1) 最初の節として基礎科目との関連をはかりながら、洋服製作のための用具、採寸方法、パターン、布地の扱い方、縫製の基礎技術などを学ぶ「製作の基礎」をおき、製作に関する基

礎的な知識と技法をまとめて学び，また実習の各段階でも参照できるようにした。

(2) 製作例としては多様な履修実態に対応できるように，短時間で製作できるものから，比較的高度な技術を要するものまで，さまざまな題材を取り上げた。

(3) 生徒の個性を活かすことを重視し，製作例のデザインは基本的なものを中心にし，創意・工夫によって応用できるようにした。また手芸を用いたデザインの応用例を示し，実習題材を基に個人のオリジナリティを出した作品とする方法も示した。

(4) 着装に関しては教科書の製作例を用いたコーディネート例をイラストで示し，コーディネートについて視覚的にも理解できるようにした。

4章 和服の製作

(1) 最初の節として，和服製作のための素材，用具，採寸，布地の扱い方，縫製の基礎技術などを学ぶ「製作の基礎」をおき，製作に関する基礎的な知識と技法をまとめて学び，また実習の各段階でも参照できるようにした。

(2) 製作例としては，多様な履修実態に対応できるように，短時間で製作できる題材も取り上げた。

(3) 基本的な着装の例として，男女の浴衣の着装法をイラストで示した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	箇所	配当時間
1章1節 人体と衣服	(1) ア	p.6~19	7
1章2節 立体構成衣服と平面構成衣服	(1) イ	p.20~22	7
2章1節 衣服素材の種類	(2) ア	p.24~37	10
2章2節 衣服素材の性能と選択	(2) イ	p.38~46	10
3章1節 製作の基礎	(3) ウ	p.48~79	5
3章2節 製作例	(3) ア・イ・ウ・ エ・オ・カ・キ	p.80~143	70
3章3節 着装	(3) ク	p.144~154	5
4章1節 製作の基礎	(4) ア・イ・ウ	p.156~162	5
4章2節 製作例	(4) エ・オ	p.163~198	56
4章3節 着装	(4) カ	p.199~205	5

計 180